



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第45巻第4号)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第45巻第4号). 泌尿器科紀要 1999, 45(4): 310-310

ISSUE DATE:

1999-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114012>

RIGHT:

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
  - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円、英文は6,500円、超過頁は1頁につき7,000円、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
  - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円、6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
  - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

#### Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.  
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

#### 編 集 後 記

「科学的根拠に基づいた医療：Evidence-Based Medicine (EBM)」は、21世紀へ向けて日本の医療の方向を示すものの一つと考えている。先日行われた日本医学会総会でのシンポジウム「臨床研修の在り方」を司会した際、シンポジストのひとり赤津晴子さん（『アメリカの医学教育』（日本評論社、1996）の著者で、ブラウン大学医学部を卒業、スタンフォード大学の研修医を経験）の報告から、evidenceにはpaperからのものだけでなく、患者からの問診、身体所見を通じて得るものも含まれていることを知った。さらにアメリカでは、医学生に卒前および卒後研修で、evidence収集の方法を徹底して教育していることも知った。日本の医学教育にも生かさねばならないことと思う。



Yosh Taguchiさんは年来の友人である。カナダ泌尿器科臨床の一端をくみ取っていただければ幸いである。この対談は英語で行われたものであるが、テープおこしから翻訳までご苦勞をかけた副編集長の寺井君および教室員の諸君にお礼申し上げる。

(吉田 修)